

1 環境問題，特にプラスチックごみに関する次の文章を読み，以下の問いに答えなさい。

主に石油を原料とするプラスチックはレジ袋やペットボトル，卵パックなど様々な製品に利用されている。プラスチックは安く，加工が簡単で，生活のあらゆる場面で使われているが，いったんごみになると分解されず，自然界に残ってしまう。そのため，陸や海を問わず深刻な汚染をおこしている。2019年に海に流れ出た量は2200万トンと試算され，海そのものを汚している。このまま増え続ければ，2050年には海では魚よりもごみが多くなるともいわれている。加えて，細かくなったプラスチックを魚が飲み込み，それを食べた人間にも健康被害などの影響が出るおそれがある。

プラスチックによる汚染を防ぐため，杉並区では2008年に「杉並区レジ袋有料化等の取組の推進に関する（ X ）」が制定され，2020年からは，経済産業省が中心となって，全国でレジ袋の有料化がスタートした。しかし，日本だけの取り組みでは，どうにもならないところまでプラスチック汚染は深刻化している。

国際的な取り組みでは，2025年8月5日からスイスのジュネーブでプラスチック汚染を防ぐための条約について話し合う国際会議が開催された。前回の韓国の会議では，各国の合意を得ることができなかったため，今回は先送りした8か月前の会合を受けた「延長戦」となった。各国がみんな納得できる条件を見つけられるかがポイントとなっており，関係者は「今回で合意できなければ，プラスチック汚染問題に対してあきらめるような雰囲気になりかねない」と話していた。結局，今回の会議でも条約を結ぶことはできなかった。

なぜここまで話がまとまらないのだろうか。①プラスチック汚染を防ぐ対策では，そもそもの生産量を減らすべきであるという「上流」の対策から，プラスチックごみの捨てる量を減らしたり，使用済みのプラスチックをリサイクルしたりするといった「下流」の対策もある。その中で，今回話がまとまらなかったのは，「上流」にあたる対策を盛り込むかどうかだった。環境先進国であるヨーロッパに加えて，直接的な影響を受けやすい日本などの島国は，根本的な解決のために生産規制を求めている。島国では，砂浜がプラスチックごみでおおわれ，海洋の魚や

海鳥などがプラスチックを飲み込むことで希少な海洋生物の生存が危機的な状況にある。一方で、②産油国であるサウジアラビアは生産量を規制することに強く反対している。また、大量にプラスチックを生産・消費している中国やインドも生産の規制には反対をしている。

他にも、プラスチック製品に含まれる有害な化学物質の規制や、技術が十分に整っていない発展途上国への支援などが論点となった。プラスチック生産量の具体的な削減目標を設定するなど条約に厳しいルールを盛り込めば、強力な対策となるが、参加に^{しんちょう}慎重になる国が増えることが予想され、大きな効果は期待できない。一方で、具体的な削減目標がない^{ゆる}緩いルールでは、多くの国が参加しやすくなるものの、実効性のある実質的な対策をおこなわない国が出てくる。

ヨーロッパ諸国を中心に日本やアメリカ合衆国を含めて38の先進国が参加している経済協力開発機構(OECD※)によると、各国の協力のもと強力な対策が実施されなければ、③プラスチックの生産量は2020年の約4億3500万トンから、2040年には約7億3600万トンに増加する。そのことにより、プラスチックの排出量の増加や不適切な処理などで海へ流出する量も大幅に増える見込みである。

生活に便利なプラスチックは私たちの生活のあらゆるところで使用されている。「レジ袋さえ減らせば、大丈夫」とはとても言えない我々の未来を、様々な国と協力して変えていかなければならない。

(『月刊ニュースがわかる』2025年2月号や『朝日新聞』2025年8月5日朝刊などにより作成)

※OECD…38の先進国から構成される国際組織。1980年代は24か国で組織されていたが、現在ではEU22か国に加え、南北アメリカ地域の国々やオーストラリア、日本、韓国などが加盟している。中国やインドは含まれていない。

問1 本文中の空らん(X)に入る語句を次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 条例 イ 条約 ウ 法律 エ 憲法

問2 よりよい環境で生活をする権利の根拠となる日本国憲法の条文の一つには、第13条があります。条文中の空らん(Y)(Z)に入る語句を、次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

第十三条 すべて国民は、(Y)として尊重される。生命、自由及び(Z)追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

ア 全体の奉仕者 イ 個人 ウ 利益 エ 学業
オ 幸福 カ 成年

問3 本文で説明している内容について、最も近い内容のSDGsの目標を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



問4 プラスチック汚染を防ぐための条約について話し合う国際会議では、様々な立場の国があり、話がまとまりません。生産の規制に反対している国を、次のア～オから2つ選び、記号で答えなさい。

ア ドイツ イ 中国 ウ インド エ 日本 オ フランス

問5 下線部①のプラスチック汚染を防ぐ対策について、「下流」の対策にはどのような対策がありますか。本文であげられている対策を2つ答えなさい。

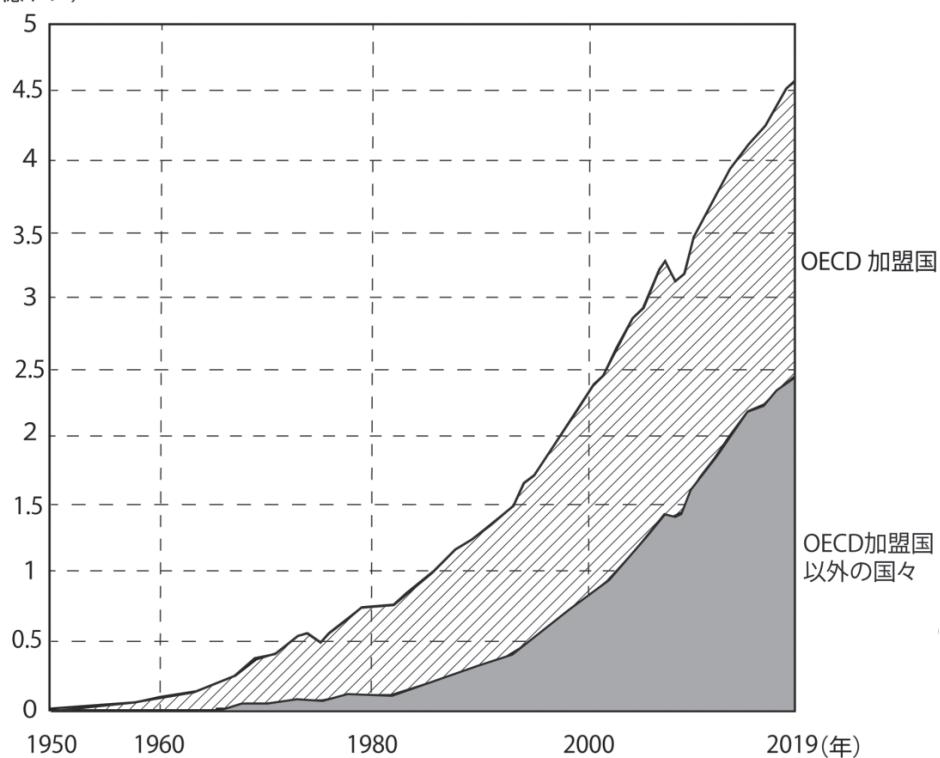
問6 下線部②の産油国であるサウジアラビアは、なぜプラスチックの生産規制に反対していますか。考えられる理由について本文を参考に説明しなさい。

問7 本文中では、国際条約のルールを厳しくしたり、緩くしたりした場合に、対策の効果が低くなるおそれについて書かれています。削減目標などを明記した厳しいルールと明記しない緩いルールでは、それぞれなぜ対策の効果が低くなると考えられますか。本文から簡潔に説明しなさい。

問8 下線部③について，[資料1]は，世界のプラスチックの生産量の変化とその内訳を示したグラフです。[資料1]から読み取れる内容として不適切なものを，次のア～エから1つ選び，記号で答えなさい。

[資料1]世界のプラスチック生産量の変化とその内訳

(億トン)

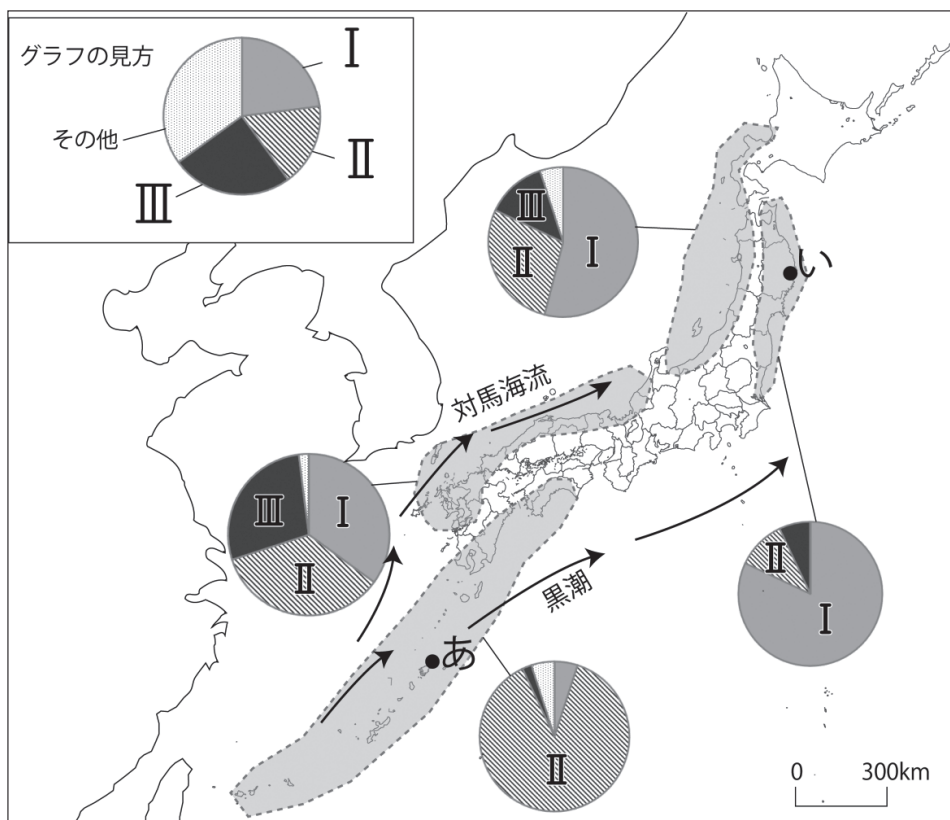


(<https://www.oecd.org/en/topics/plastics.html>により作成)

- ア 2019年のプラスチックの生産量は、1960年のプラスチックの生産量と比べると10倍以上になっている。
- イ 1980年の段階では、OECD加盟国が生産するプラスチックが世界全体の半数以上を占めている。
- ウ 2019年の段階では、OECD加盟国が生産するプラスチックよりも、それ以外の国が生産するプラスチックの方が多い。
- エ 1980年のOECD加盟国のプラスチック生産量と2000年のOECD加盟国の生産量を比較すると、2000年のOECD加盟国の生産量の方が少ない。

問9 日本に多く漂着^{ひょうちゃく}するプラスチックごみの一つであるペットボトルごみについて調べて[資料2]を得ました。[資料2]は2023年に調査された四つのエリアに漂着したペットボトルの言語表記と各言語の割合を調べたものです。以下の問いに答えなさい。

[資料2] 各エリアに漂着したペットボトルの言語表記と各言語の割合



注)・矢印(→)は海流の向きを示しています。

・円グラフは、破線部のエリア(破線部)に漂着したペットボトルの言語表記の割合を示しています。

・「その他」には、言語が判断できない(不明)ペットボトルは含まれていません。

(環境省『令和5年度漂着ごみ組成調査データ取りまとめの結果について』により作成)

A [資料2]中の「あ」と「い」は、漂着ごみの観測地点のうち二つの地点を示しています。二つの地点は何県に位置しているか、次のア～クからそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 青森県 イ 岩手県 ウ 茨城県 エ 愛媛県
オ 岡山県 カ 鹿児島県 キ 高知県 ク 福島県

B [資料2]中のⅠ～Ⅲには、日本に漂着するペットボトルの言語表記のうち、多くを占めている日本語、中国語、韓国語のいずれかが入ります。[資料2]中の海流(黒潮、対馬海流)を参考にして、正しい組み合わせを次のア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
Ⅰ	日本語	日本語	中国語	中国語	韓国語	韓国語
Ⅱ	中国語	韓国語	日本語	韓国語	日本語	中国語
Ⅲ	韓国語	中国語	韓国語	日本語	中国語	日本語

問10 ペットボトルなどのプラスチックごみの国際的な対策が必要になっている理由について、[資料2]を参考にして説明しなさい。